

# 揖斐川森林計画区

## 第三次国有林野施業実施計画書

計画期間 自 平成21年 4月 1日  
至 平成26年 3月31日

中部森林管理局

この国有林野施業実施計画（以下「本計画」という。）は、国有林野管理経営規程に基づき、国有林の地域別の森林計画及び地域管理経営計画に即し、森林管理局長が森林計画区域内の管理経営する国有林野の箇所別の伐採、更新等について5年ごとにたてる5年間の計画である。

この本計画の計画期間は平成21年4月1日から平成26年3月31日までの5年間である。

## 目 次

1	国有林野の区画の名称及び区域並びに3機能類型及びタイプ別の区域	1
2	施業群及び生産群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積又は標準伐採量、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量	1
	(1) 伐採造林計画簿	1
	(2) 水源かん養タイプにおける施業群別面積等	1
	(3) 水源かん養タイプの施業群別の上限伐採面積	2
	(4) 生産群別の面積等	2
	(5) 標準伐採量	2
	(6) 伐採総量	3
	(7) 更新総量	3
	(8) 保育総量	4
3	林道の整備に関する事項	4
4	治山に関する事項	5
5	保護林及び緑の回廊の名称及び区域	5
	(1) 保護林の名称及び区域	5
	(2) 緑の回廊の名称及び区域	6
6	レクリエーションの森の名称及び区域	6
7	その他必要な事項	6

1 国有林野の区画の名称及び区域並びに3機能類型及びタイプ別の区域  
国有林野施業実施計画図による。

2 施業群及び生産群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積又は標準伐採量、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量

(1) 伐採造林計画簿

伐採・更新箇所ごとの伐採・更新面積及び方法等については、伐採造林計画簿に示すとおりである。

(2) 水源かん養タイプにおける施業群別面積等

(単位：ha、年)

施業群		面積	施業の方法等		伐期齢 又は 回帰年
			施業方法	目標とする森林	
長伐期		298.04	育成単層 林施業	主伐は、伐期齢のおおむね2倍以上の 林齢において行い、成長の旺盛な時期から 主伐までの間に成長に応じた間伐を繰 り返し、下層植生の発達した森林を成立 させる。 伐採方法は皆伐による。	スギ 120 ヒノキ 150
択伐 複 層 型	人工林択伐 複層型	47.00	育成複層 林施業	人工林及び天然林において、択伐によ り部分的に伐採し、人為あるいは天然力 により複層林化を図り、複数の樹種及び 樹冠層を構成（階層構造）する森林を成 立させる。	85 (35)
	天然林択伐 複層型	22.52	天然生林 施業		
合計		367.56			

(注) 1 林地以外の土地の面積は含まない。

2 ( ) は回帰年である。

(3) 水源かん養タイプの施業群別の上限伐採面積

(単位: ha)

施 業 群	上限伐採面積
長 伐 期	9.93
択 伐 複 層 型	7.28

(注) 上限伐採面積は計画期間(5年)分の面積である。

(4) 生産群別の面積等

(単位: ha、年)

生 産 群	面 積	生 産 目 標 等			伐 期 齢
		樹 種	生 産 目 標	期 待 径 級	
一 般 用 材	31.65	スギ	一般建築材を主とした生産	22cm	60
		ヒノキ	芯持柱材や一般建築材を主とした生産	22cm	75
合 計	31.65				

(注) 1 林地以外の土地の面積は含まない。

2 期待径級は胸高直径である。

(5) 標準伐採量

当計画区の資源の循環利用林面積は僅少であるため標準伐採量は定めない。

## (6) 伐採総量

(単位：m<sup>3</sup>、ha)

区 分		林 地					林地 以外	合 計
		主 伐	間 伐	小 計	臨時伐採量	計		
水 土 保 全 林	国 土 保 全 タ イ プ			(61.82) 4,425	4,425			
	水 源 かん 養タイプ	長 伐 期		4,746	4,746			
		人 工 林 択 伐		18	18			
		小 計		(53.46) 4,764	4,764			
	計			(115.28) 9,189	9,189			
資 源 の 循 環 利 用 林	一 般 用 材	3,865		3,865				
合 計		3,865	(115.28) 9,189	13,054	646	13,700	13,700	
年 平 均		773	(23.06) 1,838	2,611	129	2,740	2,740	

(注) ( ) 書きは間伐面積である。

## (7) 更新総量

(単位：ha)

区 分		水 土 保 全 林			森 林 と 人 と の 共 生 林			資 源 の 循 環 利 用 林	合 計
		国 土 保 全 タイプ	水 源 かん養 タイプ	計	自 然 維 持 タイプ	森 林 空 間 利 用 タイプ	計		
人 工 造 林	単 層 林 造 成							9.93	9.93
	複 層 林 造 成								
	計							9.93	9.93
天 然 更 新	天 然 下 種 第 1 類								
	天 然 下 種 第 2 類								
	計								
合 計								9.93	9.93

## (8) 保育総量

(単位：ha)

区分		水土保全林			森林と人との共生林			資源の循環利用林	合計
		国土保全タイプ	水源かん養タイプ	計	自然維持タイプ	森林空間利用タイプ	計		
保育	下刈		3.86	3.86				29.87	33.73
	つる切								
	除伐	0.20	21.63	21.83					21.83
	枝打								

## 3 林道の整備に関する事項

(単位：m)

基幹・その他別	開設・改良別	路線名	林班・箇所	延長	備考
基幹	改良	檜原谷足打谷（檜原谷）	3166～3169 2箇所	40	
		檜原谷足打谷（足打谷）	3173～3178 6箇所	120	
		河内谷	3046～3057 1箇所	20	
		計		180	
その他	改良	岩の子	3034～3045 1箇所	20	
		檜原谷支線	3167～3168 2箇所	40	
		計		60	
合計	開設				
	改良			240	

(注) 災害復旧等緊急を要する工事については、指定箇所以外においても実行できる。

#### 4 治山に関する事項

(単位：保全施設 箇所、保安林の整備 ha)

位 置	区 分	工 種	計画量
3005、3007、3018、3020、3024～3026、3166～3168、 3173～3176	保全施設	溪 間 工	13
3173		山 腹 工	1
3026、3176		運 搬 路	2
3036		管理道補修	1
3166～3168、3178	保安林の 整 備	保 育	56.56

(注) 1 保全施設の計画量「箇所」数は、「単位流域」数を表す。

2 災害復旧等緊急を要する工事については、指定箇所以外においても実行できる。

#### 5 保護林及び緑の回廊の名称及び区域

##### (1) 保護林の名称及び区域

(単位：ha)

種類	名 称	新設 ・ 既設	面 積	特 徴 等	施 業 等
林木 遺産 資源 保存 林	名古屋ブナ2	既設	8.71	ブナの一斉林である。	原則として、伐採は 行わない。 ただし、保存対象樹 種の安定的かつ恒久的 な存続を図るために必 要な場合は、枯損木、 被害木の除去を中心と した弱度の択伐を行 う。
植物 群落 保護 林	三周ヶ岳ブナ	既設	1,130.45	日本の原生的なブナ帯 のほぼ中央に位置し、そ の連続性から重要な林分 である。	原則として、人手を 加えず自然の推移に委 ねた保護管理を行う。
	能郷白山ブナ	既設	641.32		
	岩の子ブナ	既設	182.41		

## (2) 緑の回廊の名称及び区域

(単位：km、ha)

名 称	新 設 ・ 既 設	延長	面 積	位 置 (林小班)	特 徴 等
越美山地	既 設	60	7,259.63	3001～3009、 3014～3017、 3020～3022、 3026～3033、 3034～3037、 3039はにへとち、 3040～3057	越美山地の国有林内に設置されている保護林を連結することにより、森林の連続性を確保し、森林生態系の一層の保護・保全を図るものとする。

6 レクリエーションの森の名称及び区域  
該当無し

7 その他必要な事項  
該当無し